

中津川市総合計画審議会

第1回産業部会要旨

平成25年8月21日（水）

午後1時25分 開 会

開会

- （大西会長） 本日は中津川市総合計画審議会の部会の招集により集まっていた。本日は部会の立ち上げにあたる第1回である。部会運営の責任者の部会長、副部会長の互選の手続きに入るまでは、今回の部会の招集人である審議会会長が議事を進める。

1. 事務局連絡

- （大西会長） 事務局からのお願い、提案があるので最初をお願いしたい。
- （木村企画財務課長） 今後の審議会、部会の情報伝達のため、会長、部会長からの各委員への連絡手段として、できれば連絡先、携帯電話番号、携帯メールアドレス、パソコンメールアドレスをお知らせいただきたい。配布する用紙あるいは名刺等の提出にぜひともご協力をお願いします。
- （大西会長） 第1回審議会で、委員が部会に分散した結果、他部会での議論や進捗状況等の情報が得られなくなるのではないかという発言があった。この件について、事務局からの提案があります。
- （木村企画財務課長） 委員のみなさまへの周知の方法は、必要に応じて文書等を発送するが、みなさま共通で見ていただくために一番良いのはホームページと考えている。中津川市役所のホームページのトップページの右側にある「各種審議会等会議結果」のなかの「中津川市総合計画審議会」のコーナーに、今後、開催される部会の日程・議案・開催内容等を随時掲載していきたい。
- （大西会長） 審議会や部会が開催されると事務局が議事の要約の原案を作成し、部会長ないし副部会長が内容を確認、サインした後、事務局がホームページへ掲載するという形になる。

2. 審議会の位置付け

- （大西会長） 7月12日の会議資料3の中にあるように、総合計画は基本構想と実施計画の二層建てとなっている。基本構想とは市長が市議会に提案し、市議会によって承認されるものである。審議会の答申は、市長が基本構想の最終案を作るための参考にするという位置づけである。
- したがって、私たちが審議会で進めていくことは、市長が最終的に議会に提案する基本構想の骨格を作るということである。骨格を作るにあたり基本構想の中身は三本柱になっていて、①基本理念、②市の将来都市像、③政策の分野別体系となる。

実質的に私たちに与えられている時間は半年ほどであり、審議会、部会としては、自立して自分たちの結論を出すための方法論と手順をもって進めていきたいと考えている。

市役所の各部でどのような計画・プランがあり、何がどこまで進んでいるのかという情報を出してもらうことにした。

周辺の恵那市や瑞浪市はどのように総合計画を考えているのかにも目を通しておく必要がある。その中でお互いを比較する、整合性を図るといった議論ができると考えている。

3. 委員・部会の位置付け

- (大西会長) 審議会の委員の大多数は組織、団体の代表者としての委員になっている。審議会のなかに公募委員、識見の委員という組織、団体を越えたコモンセンスを代表する委員という仕組みが含まれている。
- もう一つの仕組みとして、アンケート調査、グループインタビューがある。これによって一般市民の声をどうやって吸収し、それを受けた形で全体をいかに調整していくかということになる。
- 間接的に物事を決めていくルールの中に、直接的な要素をできるだけ取り入れたいという部分が、公募委員・識見委員、アンケート、グループインタビューにあたる。

4. 部会の作業

- (大西会長) 産業部会には、本来は産業には直接関係のない委員も入っているという制度になっている。部会の構成は、各委員の割り振りを行ったうえで委員の異動希望をそのとおり受け入れた結果、部会ごとの人数は異なっている。
- 部会の構成について、会長が職権を濫用、強権を発動したことはないということをご理解いただきたい。
- 部会運営においては、部会のなかで市民の声という直接民主主義的な要素を活かしていくことを留意していただきたい。
- 部会でやってほしいのは、基本構想の①基本理念、②市の将来都市像、③政策の分野別体系の三本柱のうち、まずは市の将来都市像について議論を集中させていきたいということである。
- 市の将来都市像について、審議会の委員の大多数は組織・団体の代表であるので、それぞれの組織・団体としてみたときの市の将来都市像をどのようにしたいのかについて発言いただきたい。公募委員の方は個人の考え、識見委員は他の事例などもよいだろう。また、それぞれの組織・団体を紹介するための情報、パンフレット、ホームページのコピー等をご準備いただきたい。
- さらに、中津川市の将来都市像を考えるにあたって、自分たちの活動のどの部分を延長していくと中津川のためになるのかなど、時間がないのではじめからどこかでクロスすることを前提に、二次元ないし三次元の表を書く方向で願

いしたい。中津川市の将来像のなかで組織・団体がどのように役立てるかという接点をもっていたきたい。

将来都市像の集約ができていけば、それを中心に基本理念や政策の分野別体系などを議論していくことができると考えている。

5. 部会長・副部会長の役割

- (大西会長) 将来都市像のとりまとめ作業、原案づくりは、審議会の会長と2人の副会長、三部会の部会長、さらには副部会長会がいるが、最少の人数の6人で行い、各部会に持ち帰っていただくというやり方で進めたい。
- 三役の指示で部会を運営し、三役と部会長間の話し合いで議論の内容や進度の調整を行っていく。そして、部会の将来都市像をもとに基本理念や分野別体系の原案を作成し、部会に持ち帰って検討していただくという進め方を願いたい。

6. 事務局の位置付け

- (大西会長) 作業を進めるにあたり、必要となる調べものや資料の準備を事務局に担当させたい。事務局は審議に加わることはなく、部会の副部会長を通じて動くという位置づけにさせていただきたい。

～説明終了～

- (大西会長) 以上のような流れでいきたいがご了解いただけるか。

～異議なし～

- (鈴木副会長) 我々の立場として考えて、こういう資料や情報がほしい、関係部署との取扱いをどうするかなどについて、いかに市とやりとりするかについては副部会長が中心となってもらおうという考えでみなさんの協力をお願いしたい。

- (大西会長) 三役と部会長との会議の際に、副部会長から各部会での必要資料などを出していただき、重複部分等については調整して、事務局に資料準備等をお願いしたいと考えている。

～互選により、部会長は岡山委員、副部会長は浅井委員に決定する～

～規定に従い、就任した岡山部会長が議長として議事を進める～

- (岡山部会長) 今まで答申をする審議会では行政の原案を基本的に追認するような形式が多かった。あえて原案を自分たちで作っていかうということで敬意を表す。但し、大変な作業と理解しているので、会長、浅井副部会長をはじめ、みなさまの協力を得てとりまとめていきたいのでよろしくお願いしたい。
- 部会では基本構想のなかの市の将来都市像について、部会の中での提案をまと

めるということであるが、その前に自分たちの所属する団体・組織がそれぞれどのような将来構想をもっているのかを全体が理解する、そしてそのなかで自分たちの所属する団体がどのような役割を担っていくのかを全部出すなかで、将来像について決めていくという手順を提示いただいている。その進め方でよろしいか。

～異議なし～

- (岡山部会長) 産業部会は、工業振興、商業振興、観光振興、移住・定住推進、農業推進、林業推進についての方向付けをすることになる。役割分担を明確にしておいたほうが良いと思う。
- 既存の計画との兼ね合いが出てくる。まったく別議論をしてもどうしようもないので、各団体として各部署の計画を精査し、どのようにまとめていくかを考える必要があると思う。

～各委員が担当したい分野を述べる～

- (岡山部会長) 商工業振興は鈴木委員と岡山で担当させていただき、観光振興は安藤委員と鈴木委員にとりまとめをお願いしたい。移住・定住推進は品村委員と浅井副部会長で、特に外部から見た視点という部分でお願いしたい。農業振興、林業振興は専門的な部分になってくるので、ここは1人・1人で足立委員と鷹見委員にそれぞれお願いしたい。特に農林業については幅を広げるために、ぜひ産業というくくりのなかで他の産業との連携の必要性ということを含めて検討していただきたい。
- 主になる人を決めた方がいいか。2人で相談していけばよいか意見をお願いしたい。
- (鈴木副会長) 観光は安藤委員と相談しながら進めるが、まとめ方の骨子、ルールは部会長・副部会長で決めておいていただきたい。例えば、観光協会は営利的に動いているし、市の観光は漠然としているので、ずれているところがあると思う。未来像でいきながら現実をどう判断していくかという方向性を教えていただければその方向でまとめたい。
- (岡山部会長) 会長から考え方の試案としていただいているのは、基本的に選出母体の立場で考えるということ。意見を聞くという意味では、選出母体に代わるものとして、観光で言えば観光協会の意見は聞かないといけないが、それに対してどう考えていくのかは委員個人の意見という部分があるかもしれない。全体としては浅井副部会長も入れて意見を調整していくというやり方でどうか。
- (鈴木副会長) 観光協会については、やはり恵北と中津川で少しズレている。もともと別々のものである。そのあたりを踏まえてうまく出さなくてはならないと考えている。商工会議所と商工会の考えもある。ここをうまくやるのが大事。

(岡山部会長) 作るだけ作って意見も聞かないということになると、お互いにそんなことは知らないよという話になってしまうような気がする。何らかの形で網羅、精査をして、批判はあるかも知れないが検討の余地に全部入れていかないといけないだろう。

現在、それぞれの部署、組織・団体で動いている計画・振興計画などをしっかりつかんでいただくこと。各委員が、中津川市が今どう進もうとしているかを理解することがスタートだと思う。そこで、自分たちの所属する団体が、今後、どのように関わっていくのか、それをどんな風にしていったらいいのか、このままでいいのかをまとめていただくことが今回試案になろうかと思う。

(足立委員) 農業ビジョンについても、中津川市、JA ひがしみの、農業振興協議会、農業界などがばらばらに出している。ひとつのものをとって、市の中にいくつもの団体があって、取り方が全部違っているという思いがあるので、整合性をとった中で一つのものにしていくということではないか。

(岡山部会長) そういった今あるものをまず出す、探し出すということが大事かもしれない。

(鈴木副会長) この部会の中でも商業、工業、農業、観光などが絡んでくる。どこかでお互いの垣根を越えていかないと。そのあたりを正副部会長から指示していただけるといい。

(岡山部会長) まずは現状何があるか、自分たちの団体はもとより各委員が担当する行政等の情報をつかんでいただき、その資料の提出をお願いするところから始めていきたい。

全体の流れのなかで、部会はいつごろまでに将来像の問題をとりまとめればよい。

(大西会長) 産業部会は、本来選出母体が産業以外の人もいるということで、産業の選出母体の人が他の部会に行っているということ。基本はそれぞれのバックグラウンドのなかで将来都市像を出してもらい、別の部会からも出てくるので一回まとめればよい。

市、県内の諸団体が違うことを言っているということは、少なくとも部会内で出してみて、どこが違うのかということをやることが必要がある。出さないでやっていても先へ進まないの、まずそれぞれが一回出してみるということでやっていただきたい。

いつまでということ、かなり予測が難しいと思う。今、アンケート調査をやっていて9月初めに第1回の集約が出る。9月6日に集約が出た段階で、あらかじめ送付して第2回の部会を行い、民意的なものと部会の意見とのすり合わせをしてほしい。第3回目ぐらいには、まとめの方向に入っていただくことになる。

そのほか欠席委員にどういう役割をやってもらうか、どういう内容だったかを副部会長から説明していただくとか、そういう手順を決めないといけない。これから開催されるほかの部会も含めて、欠席委員の取り扱いを決めたいと思っている。

～第2回産業部会の日程調整を行う～

(岡山部会長) 第2回部会は、9月11日(水)15時から開催する。

行政が持っているそれぞれのビジョンで手に入る範疇のものはすぐに渡せるか。

(木村企画財務課長) それぞれの部署に依頼して、印刷してもらうものがあると印刷するので、少し時間がかかります。

(岡山部会長) 11日までに、将来像を決めるために、それぞれの分野で現在どのように対応しようとしているのか、将来担当が果たせる役割についてA4一枚程度で文章化していただきたい。それをもって共通認識を作っていきたい。

少し時期が早く、具体的役割までは決めていないと思うので、今回は要約でいいので、今こんな資料が出てきて、こんなふうに取り組んでいると。そしてこんなふうにといいなと思っているという意見表明まではできるように第2回までに作っていただいて発言していただきたい。そして次回は具体的に文章化までもっていくという形をとらないと無理かと思う。

もう一度確認すると、それまでに必要な資料を事務局から提出させるので、その資料と自分たちで集めてもらう資料をもとに、私見で構わないので将来に向けた考えをまとめてもらいたい。今回は文章化までは難しいかもしれないが、その先には、それに基づいて文章でしっかりとした方向を作っていただく。

今回は、そういう方向性の共通認識を作っていきたいと思う。

(鈴木副会長) 観光協会や商工会議所、商工会を訪ねる場合、我々はどういう肩書でどういう名目で行けばいいのか。市がフォローするのか、審議会としてなのか、部会はどういう考え方でやるのか。内々で調べるといってもよそのデータをくださいと言わざるを得ない。よそとのバランスということでやろうとするとアンケートよりこっちが先である。それを知ったうえでどういうアンケートが出てきたかを見ないといけない。

(岡山部会長) どの団体へ行ってもいいかという違和感もある。委員の人が行くところについては、中津川市の将来構想を検討中であり、担当委員がお邪魔するので協力を願いたいという文書を持参するようなことが必要かもしれない。

(大西会長) 内容をメール等で送ってもらえば、みなさんに配布しておくことも可能。

(鈴木副会長) 審議会議長と、市からも出しておいたほうがいい。

(大西会長) 一番のポイントは何らかの形で一つの文書を作ってみるということ。それがないと他の人は分からないので、とにかく文書を出してみて、お互いの共通点とか接点がどこにあるかを探ろうという考え方。

(浅井副会長) 自分が理解していたことと鈴木委員のおっしゃったイメージが異なる。

私は、それぞれ自分の背後の団体をおもちの方は、計画期間の長短はあるもののおそらく計画が存在するので、その膨大な内容をA41枚にまとめてくれということかと思っていた。

(大西会長) それでもよい。

(浅井副会長) そこで問題になるのは選出母体がないテーマ、例えば定住・移住推進など。ここをはっきりさせないといけない。

もう一つ、鈴木委員のイメージでは足を運んで「どんな計画があるの？」とドアをノックして情報を集めて、委員の意見を A4 一枚にまとめる場合。そのためにはサポートするデータがないと勝手には動けないということ。それと訪問するのであれば、複数の部会がそれぞれに行けば迷惑となることも懸念される。部会間の調整が必要になるのではないか。

(岡山部会長) 訪問時には名目をはっきりとさせる、委員という立場で行くということで協力依頼文書があれば一番手取り早い。あるいは産業振興についてご意見をお聞かせいただきたい、ということで文書化すれば、他の部会と重複しても問題ないのではないか。

(大西会長) みなさんの思いがいろいろあるので、一回出してみる必要がある。そしてさらに精密なものに書き直す、書き方を統一するといったことが出たとしても、入り口でいろいろな可能性を探っていると、ほとんどのことに手が届かなくなる。

(岡山部会長) 会長からいただいたのは、出身母体が全部あるというのが前提だが、出身母体も商業振興では商工会議所と商工会があつて微妙な違いがある。それぞれの出し方は相当違いがあると思うので、全部を網羅することは不可能かと思う。多分観光も同様で、中津川の観光協会の話聞いたところで、全体の観光協会をどうするのかということがあるので、そこは自分なりの納得の仕方をしないと無理かもしれない。一回は日にちまでにそれぞれの資料集めをして、行政ができるところは行政にお願いし、民間レベルのところは行政ではだめなので自分たちでやることでよろしいか。

～異議なし～

(岡山部会長) 先ほど担当を決めたが、ここで情報が取れそうだというイメージはできるか。観光は安藤委員と鈴木副会長でご相談いただき、定住・移住については浅井副会長と品村委員で相談して役割分担をお願いしたい。

(浅井副会長) 市から移住・定住推進計画を出してもらいたい。考える時間も要るので、今あるものでいいので一週間くらいのところで出してほしい。

(鈴木副会長) 副会長に極力お願いしたいのは、市に対しては「いつまで」と言っていたきたい。言った通りにやらせないといつまでもズルズルとなっていくことを経験している。

(岡山部会長) まず行政の担当部署が関係資料を率先して出していただくことが大事。

(浅井副会長) 指示以外にもこういう情報、データもあるということを積極的に教えていただきたい。その中でも移住定住推進計画は、我々委員、民間として情報が無い。一週間くらいのところで出していただきたい。他も含めて、市役所の中にあるもので、差し支えないものを担当委員に 28 日までに発送いただきたい。

(岡山部会長) 11 日には、より内容を加えて検討をさせていただきたい。
先ほどの連絡先の文書について提出いただきたい。

(足立委員) 欠席の場合をどうするか。

(岡山部会長) まず、所属団体については代理出席を認める。その場合、発言を含めて一任でよいか。

～異議なし～

(岡山部会長) 浅井副部会長、品村委員の場合は欠席の場合は、資料を送り、基本的には部会に従っていただかないといけないが、重大な意見については追って連絡いただければ対処するという事としたい。

(大西会長) グループインタビューの対象先の一覧表がある。対象先について、さらに追加したほうがいいのではないかということがあれば、意見を伺いたい。

(岡山部会長) 訂正などがあれば部会長まで知らせてください。

午後2時52分 閉 会

平成25年9月11日

岡山金平